
ゲキのBIOHAZARD

オワタ¥(^o^)/

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゲキのBIOHAZARD

【Nコード】

N5687V

【作者名】

オワタ¥(＾o＾)ノ

【あらすじ】

この話の主人公の少年、ゲキは、大の親友、ゴウとともに（親もいる）南の孤島へ行き帰ってきた次の日、二階のベッドルームから降りてきてそこで見たものとは?????!

第1話・本作品を読むにあたっての前書き

この話は、オリキャラのゲキとゴウ、メイの三人がバイオハザードに巻き込まれてしまい、その真相を知るために冒険をする話です。

あとほとんどのキャラクター、BOWはオリキャラのため、よく分からないところや酷いところもあるんですが、そこは

「どーでもいい」

って言う風で受け流してください。

それと、内容がよくまとまっていなかったり、

投稿が遅れてしまうことはよくあります。それも気にしないで下さい。

さらに、内容が現実離れしているところもよくありますが、それがバイオハザードなので気にしないでください。

第2話・悪夢の始まり・（前書き）

どうもです。俺がこの小説を書いているオワタ¥（^o^）/D E
A T H W まあ、この小説はつまらないし、長いけどまあ、あたた
かい目で見てください。

第2話・悪夢の始まり・

ゲキ「ふー、よく寝た。」

俺はこの話の主人公のゲキ。この日まではごく普通の中学1年生だった。

この8月6日までは???でも、この日から起きたある事件のせいで人生が狂ってしまったんだ???

ゲキ「さて、一階に降りるか。」

てあれえ???なんか肉の腐敗臭が、してくるなあ???なんでだろ?」そして一階に降りてリビングのドアを開けた直後だった???

腐敗臭がよくなった。

ゲキ「うはwwくせえwwその上 の行で11文字しかつかわな作者はキメエww」その言葉を放ったら、急に「ガタン」と言う音がした。

ゲキ「んー?腐敗臭?ガタン??」

その数秒後、思い出したものがあつた。それは、映画で見たことがある、「ゾンビ」だ。

ゲキ「ま???まさか?」

ゲキはおそろおそろリビングの中心となるところへ向かつた。そこには、自らの父を喰っている???母だった。

母「ヴオオオオオ??」

ゲキ「キヤアアアア!!!」

ゲキは一瞬今の状況が理解出来なかつた。でも、すぐに次すればいいことが分かつた。このゾンビと思われる奴を、殺す。

その後、ゲキは無意識にキッチンへ行きナイフの入っている棚の引き出しを開けた。そこでゲキの意識はもどつた

ゲキ「このナイフを使えば??」

ゲキはそう思い、ナイフを取りゾンビに向かって前走 前進 した。そして、そのナイフはゾンビの胸に突き刺さつた。

ゾンビ「ヴオオオオオン??？」

ドンッ!!

ゾンビは倒れた。ゲキは20の経験値をもら(r y)

ゲキ「ハアハア??？なんとか倒した??？」

そしてゲキは一つ、今行くべき所が分かった。

学校だ。

- 第2話悪夢の始まり - 終わり 第3話 - 再会 - へ続く -

第3話 ・再会 ・（前書き）

皆さん、どうもです。またまた出てきたオワタ¥（^o^）ノです。
今回はそんなに長くありません。まあ、今回も見てください。

第3話 - 再会 -

あらずじ　　ゲキはゾンビを殺した後、学校へ向かいました。
あらずじ終わり

- ゲキの住んでいる町の学校への道 -

ゾンビ共「ヴオアアアア???’」

ゲキ「あーうぜえ&うるせえ!’」

ゲキはやつと今の状況を理解した。この町、いやこの国、いや世界中がゾンビであふれている。ゲキは学校への道を歩いていた??’??’??’んだが、この道にはゾンビがかなりいるため、この道は通れない。

ゲキ「それにしてもグロいな。」

ゾンビには、共食いをしている奴や、その辺を意味もなく徘徊している奴、人の死体やゾンビの死体を食べっている奴がいた。

ゲキ「うーん、くせえww早く学校に着きたいな。」

と言う事で、ゲキはなんだかいやな予感がするけれど学校への近道の路地裏から学校に行くことに決めた。

ゲキ「ここはやっぱ静かだな。でも、その静けさがいやな予感をよりに引き立てるんだな。」

そして、ゲキは何事もなくその路地裏を抜けようとしていた。

ゲキ「ふー、特に何もなくてよかったな。なにかがあつたら俺絶体死んでいたに違いないぞ?ナイフ一本しか武器ないし。まあ、その辺にライターとか転がってたらひろってこの「ライター、GETだぜ!’」みたいな風に絶体なつてたけど。」

そして路地裏を抜けるところで??’??’

ゾンビ「ヴオオアアアア??’?’」

ゲキ「ゾンビキターーーーーー!!!!!!!」

ゾンビが現れた!

ゲキのターン!

ゲキはどうする？ ゲキのナイフで刺す！ ドスツ！！

ゾンビのターン！

ゾンビの引っ掻く！ ズバツ！！ゲキ「がはっ」

ゲキはなんとか持ちこたえた！

ゲキ「さっきの攻撃だけでこの威力か？？？これはキツいな？？？」

ゲキのターン！

ゲキのナイフで刺す！ ドスツ！！

ゾンビ「ヴオオアアアア？？」 ズズン！！

ゾンビは倒れた！！ ゲキは36067459wwの経験値を獲得

！！

ゲキ「経験値チートw」

数秒後？？？

ゲキ「それにしてもさっきの奴は厄介だったな。まあ、済んだ事は
どうでもいいか。よし、学校に行くZE！！」

- 中学校 -

ゾンビ共「ヴオオアアアア？？」

ゲキ「あー、ここにもゾンビがいたかー。しかも、外より！！じゃ

あ、とりあえず保健室にでもいつてみるか。」

- 保健室 -

ゲキ「あ。」

そこには、ある人2人が居た。それは、
親友の、「ゴウ」と「メイ」だった。

第3話 - 再会 - 終わり 第4話 - 探索 - に続く

第4話 - 探索 -

あらずじ ゲキは学校へ行き、保健室へ行ったら、そこには友達のがウとメイがいました。 あらずじ終わり

ゲキ「つで、何故におまいらがここにいるんだ？」

ゴウ「意屋wwそれは俺の台詞だよ。」

メイ「つまり、私たち2人はゲキと同じで学校に来て保健室に行き、ここで会った後にここにゲキが来たってことよ。」

ゲキ「ゴウ「それ、一気にいっちゃあ負け。」

メイ「あ??？」

話が意外とはずむ。 まあ、そもそもが友達だしなwww

ゲキ「で、なにが有ったんだ？」

ゴウ「つまり、 カクカク？シカジカ？カユカユ？ウマウマ？ っ

てことだ。」

ゲキ「なるへそ。」

メイ「じゃあゲキも何故こんな事が起きたかわかったんだし、この学校を探索しましょう。」

ゲキ「何故に？」

メイ「まだTウィルスにかかっていない人がこの学校にいるかもしれないでしょ。ソレニ私空気ダツタシ??？」

ゲキ「メンゴ。」

ゴウ「メンゴ。」

闇八ヤト「バ？力？に？し？て？ん？の？か??？」

闇サトシ「ええ、もちろんDEATHWW」

ゲキ「??？何してたんだ？あいつら。」

ゴウ「さあ？」

メイ「じゃあ、そろそろ探索にいきましょう。」

ゲキ「そうだな。」

ゲキはポケットに入っているナイフをとり、握り締めた。

ゴウ「へー、もうゲキ武器持ってたんだ。」

ゲキ「まあ、家にゾンビいたし。」

ゴウ「ちよWWおまWW」

メイ「私もよ。ナイフをもってるわ。」

ゴウ「ちよWW」

第4話 - 探索 - 終わり 第5話 - 探索2 - に続く

第5話 - 探索2 -

あらずじ 学校の探索をすることになったゲキ達。さあ、学校にはなにがいる!?

- 学校内 -

ゲキ「うーん、探索つていわれても、どこを回ればいいんだか??」

と、迷うゲキ。 だっただが。行く所は決まった。 教室だ。教室には人が多い。なので、ゾンビになつてない人は10人や9人ぐらいいるにきまっている。というわけで、ゲキは教室へ向かうことにした。

- 1年生教室前 -

ゾンビ共「ヴオアアア??」

ゲキ「わーお、ゾンビだらけ!でも、かすかに人の声は聞こえるな??」

ゲキは声が聞こえるところに行っても巻き込まれるだけだから教室を出ることにした。

ゲキ「じゃあ、体育館に行ってみるか。」

ゲキは体育館に行くことにした。

一方その頃???

- 3階?校長室前 -

ゾンビ「ヴオアアア??」

ゴウ「くそつ!倒しても倒しても出て来やがる!うぜえ!!」

さらにその頃???

- 職員室内 -

?「キシヤアア??」

メイ「くつ???ナイフが通らないやつに勝てるはずないでしょ!」

その頃???

- 体育館 -

? 「グオオオオオ???」

ゲキ「こ、こんな奴に勝てるはずないだろ???」

体育館に居たのは???

プロトタイラントだった。

第5話 - 探索2 - 終わり 第6話 - VS - プロトタイラント
につづく

第6話・VSプロトタイラント・

あらすじ ゲキはプロトタイラントとあいました。 あらすじ終わり

プロト「ゲオオオオオ???」

ゲキ「な???なんだ???こいつ?」

その後、一瞬のできごとだった。 奴が???俺に突っ込んできた。

は?何故に?何故あんなスピードでこっち来たん?とにかく、僕の方に变なのが突っ込んできてます。 何故??

プロト「ゲオオオオオ???」

ズバツ!!!

その時、体育館に一人の少年の悲痛な声が響いた。

ゲキ「ぐはっ???」(こいつ???かなり強え???でも、なんでこんな奴がこの学校の体育館に?)

ゲキ「こうなったら???逃げるしかねえ!」

ダツ!!!

ゲキは逃げた。 保健室まで逃げた。

ガラツ!!

ゲキふう???「あいつ、なんだったんだ?なんか、いやな予感がするが???まあ、いいか。」

第6話・VSプロトタイラント・ 終わり

第7話・予感・ に続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5687v/>

ゲキのBIOHAZARD

2011年10月9日13時45分発行